

発行日：2017年4月1日

もえぎの会への期待—地域に必要とされる法人として—

昭和女子大学 人間社会学部 教授
目黒区障害者自立支援協議会 副会長
北本佳子



障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(平成17年11月17日制定、もえぎの会の野村理事長とは目黒区障害者自立支援協議会で一緒させて頂いておりますが、いつももえぎの会が地域に根差し、多様な取り組みをされていること、新たな展開に意欲的であることに感心しております。この度は、目黒区の地域生活支援拠点事業をもえぎの会が受託し、グループホームに併設されるということをお聞きました。新たな展開の一つとして、大変喜ばしく、心強いことです。

ところで、この地域生活支援拠点事業では、地域における居住支援に求められる機能として、①相談、②体験の機会・場、③緊急時の受入れ、④専門性、⑤地域の体制づくりがあげられています。これらの内容は、どれも障害者の地域生活支援においてとても重要な機能であり、その推進は不可欠です。ただ一方で、昨今地域包括ケアシステムの構築とその推進ということが言われ、誰もが安心して住み慣れた地域で生活し続けられるためのシステムづくりの検討やその実現に向けた取り組みが行われつつあります。この地域包括ケアシステムの構築は、中心的な機関として地域包括支援センターが位置付けられており、地域包括支援センターが介護保険法を根拠法としていることから、高齢者を中心とした地域づくりのように受け止められがちな部分があると言えます。しかし、地域包括ケアシステムの構築は、障害者も児童も含み、地域住民全体を視野に入れています。

特に、今は生活支援を中心とするサービス提供主体に専門性のある事業者だけでなく、地域住民がその主体として位置づけられました。これは、専門性の高い事業者だけでは、利用者のすべてのニーズには対応しきれないということを意味しているとも言えます。その意味では、もえぎの会が今後地域生活支援拠点事業を展開していくにあたりましては、専門性のある質の高いサービス提供とともに、地域住民が障害者への理解を深め、ともに助け合えるまちづくり(共生社会の実現)を可能とする取り組みを積極的に展開して頂けることを大いに期待しております。それは、もえぎの会が今まで以上に地域に必要とされる法人となっていくことにつながるとも言えます。もえぎの会のますますのご発展を心から祈念するとともに応援をさせて頂きたいと思っております。

2017年度 もえぎの会 事業報告会・懇親会のご案内

下記のように本年度の開催を予定しております。

7月8日(土) 目黒区総合庁舎 2階大会議室

改めて、ご案内をお送りいたします。ぜひ、お誘いあわせの上、ご出席していただきますようお願い申し上げます。



昨年の様子

しいの実社 2017年度事業計画

施設長 小平真理

もえぎの会は、利用希望者を受け入れ、効率的な運営をするために、定員を増やし、2施設として運営しています。しかし、利用者は定員に達し、利用希望者は絶えず、施設の拡張は、今後とも課題となります。

新施設長による2年度目の運営となり、さらに組織運営の改善に取り組みます。スタッフを取り巻く状況の変化を踏まえて、「家族とスタッフの信頼関係の進展」、「部門間の連携の強化」を基本的な目標として、権限の委譲、業務の改善、大胆な改革による計画としました。

「未来に向けて」をイヤーモットーとしました。社員・家族・スタッフが、利用者のニーズ、制度や財政、人材など社会変化を踏まえて、しいの実社、沙羅の家の具体的な姿を描き、未来の夢を語り合い、支援の向上、スタッフの定着を実現したいと考えております。

新社員を3名迎え、18歳から76歳まで、益々、幅広い年齢の広がりとなっています。そのため、年齢を考慮した活動、支援が求められます。殊に、高齢化・重度化への対策が喫緊の課題です。その一環で、目黒全体の高齢者対策として、目黒第四中跡地に、グループホーム「沙羅の家 清水」を開設し、3ユニットのグループホーム、ショートステイに加えて、目黒区から受託する地域生活支援拠点事業を運営する計画を進めます。

● しいの実社(定員 30名)

就労継続支援B型事業(定員 10名)

施設外活動の企画

活動の安定的供給

生活介護事業(定員 20名)

体力向上、生活を広げる活動

社員の安定した生活の支援

● しいの実社 学芸大学スマイルプラザ (定員 26名)

就労継続支援B型(定員20名)

高齢者向けサービスの試行

仕事の安定提供

就労移行支援事業(定員 6名)

生産維持と社会参加

就労に向けた取組み

2施設運営といっても、年間行事の社員旅行、しいの実祭、11施設交流会をはじめ、土曜開所などの余暇活動、社員の高齢化対策や健康管理のための健康診断、健康相談や健康体操などは従来通り、全体で実施します。

特に、高齢化対策は、しいの実社だけの問題ではなくて、行政、関係機関や他施設と連携して、日常生活、社会生活に加えて、将来設計を合わせて実践できるようにします。そのため、積極的に目黒障害者自立支援協議会に参加して、厚労省の政策を確認しつつ、目黒区の施策を進め、地域ネットワークを充実させるため、実践の計画、人材の育成に努めます。

他にも、地域とのつながりを強化し、地域の要請に応えるために、町会、商店街、後援会と連携して、地域のイベントへの積極的な参加や小学校、中学校の職場体験や施設実習、特別支援学校の実習を受け入れ、土曜日開所の昼食を地域のお店で取るなど地道に理解を深くする活動を継続していきます。

	18以上 20未満	20以上 30未満	30以上 40未満	40以上 50未満	50以上 60未満	60以上 70未満	70以上	合計
男性	3	9	6	15	4	2	4	43
女性	1	6	3	3	1	0	2	16
計	4	15	9	18	5	2	6	59

しいの実社 年齢構成

(平均)

2017年度

40.2

第15回 しいの実祭 開催

2016年11月26日(土)、恒例のしいの実祭を開催しました。今年も1500名を超えるお客様に参加していただきました。

クッキー、パン、マフラー、紙漉き製品、アクセサリーなど、自主製品の販売に加えて、模擬店やバザー、目黒区内の障害者施設による販売、後援会会員のお店の製品販売などを行いました。毎年、祭を実施するにあたり、町会や後援会、ボランティアの皆さんの協力が欠かせません。感謝の気持ちでいっぱいです。

「地域に理解され、地域に貢献する」を理念のひとつとするもえぎの会にとって、地域交流の要と言えるイベントで、今後も、地域の協力をいただき、さらに盛り立てたいと思います。

2017年11月25日(土)に今年度も予定しておりますのでぜひ一緒に盛り上げていただけますようお願いいたします。



勢揃いのオープニング



目玉の1つ、じゃんけんラリー



クッキー販売



イベントは今年も、大盛況！

余暇支援活動 鑑賞会

仕事をすることを活動の中心とするしいの実社の余暇支援活動である「土曜日開所」の企画として、今年度は、希望の多い鑑賞会を多く実施しました。土曜日開所は、年を重ねるごとに参加人数が増え、1日で、希望者全員が参加することが難しくなり、2か月に1回参加できる選択制などを試行錯誤をしてきました。それでも、希望者全員を受け入れていただける店が限られてしまうなど運営の課題がありました。

そのため、「鑑賞会」というタイトルにして、しいの実社のフロアを分けて3グループで楽しんでもらい、注文したお弁当もグループごとに食べるという企画を多くしました。

この企画では、外出ができないなどの課題がありますが、これまで社員同士で他の人が気になって集中して見られないといったこともなく、落ち着いて楽しめるようになりました。また、お昼もしいの実社の中でゆっくりと楽しんでいます。

今年は、また、違う企画をして、外出などにより、社員に楽しんでもらう計画をしています。



様々な場所で、様々なランチ

きょうはピザ！ 今日はお食！

医療法人石誠会 すみだ石橋クリニック

墨田区墨田4-9-20

TEL 03-5531-6686

<http://www.sumida-ishibashi-cl.com/>

内科・胃腸科・大腸肛門科・循環器科「すみだ石橋クリニック」は東京スカイツリーの見える鐘ヶ淵駅から、歩いてすぐのところにあります。1日100人に上る患者のみなさんに接する石橋励院長は、以前にお会いしたかなと思うような親しみのある方でした。

医師への道に進まれたのは「子どもの頃の憧れと高校生で進路を決めるにあたり『自分の手で生きてゆきたい』と思ったことが一番でしょうか」とお話くださいました。以後、大学を拠点に様々な病院の脳神経外科、消化器内科、海外の血管外科などで研鑽を積み、

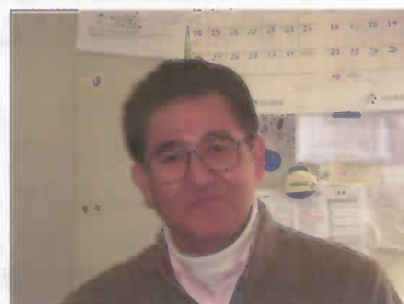
平成13年5月からこの地で診療されています。

もえぎの会には社員のご家族とのご縁で入会してく

ださいました。「以前、難病を患う人の診療に関わったとき、何度も入院を繰り返している姿に、こちらも辛く悲しい思いをしたのを憶えています。毎日の診療にも障害を持った方や高齢の方がいますが、丁寧に話しを聞くことを心がけ診療にあたっています」

毎日のご苦労をお聞きすると「マイペースで、丁寧に、できる範囲のことを精一杯やっていくのが自分流。小さな病院なので、『親切的なコンビニ』的な思いで日々診療にあたっています。デパートに対抗しても無理があるでしょう？役割分担ですね。」と、やはり自然体のお話でした。

毎日の診療をきちんとするために、スキーとゴルフでリフレッシュし、基本に忠実な食生活で体調を整え、心と体の健康維持に努めていらっしゃいます。信条の「無理せず」で、お天気と相談し、銭湯やジムに変わることもあるそうですが、自由人でアスリートなドクターとの遭遇でした。これからもご活躍をお祈りします。



石橋励院長



仕出し・ケータリングの店

ぴえー留

ケータリングやお弁当を中心に営業されているぴえ～留さんは1984年に誕生し、しいの実社と同じく2002年からこの目黒本町の地で活動されています。赤いジャンパーがトレードマークの森さん。

しいの実社のパンを買いにきていただいたり、しいの実社でお弁当を納品していただいたりしているご縁がありました。ですが、そのこだわりは「手間をかける」「お客様を思い浮かべながら作る」こと。

素材も生産者が手間をかけたものを使うことにこだわっているそうです。

安心や安全は値段にはかえられない。少々高くても安心安全なものをこだわって仕入れているそうです。

初めての注文を受けた時にはなるべくお客様と直接会い、話をし、コミュニケーションを大切にしている森さん。そして、そのお客様のことを思い浮かべながら手間をかけ心のこもった味を届けています。

また、森さんはしいの実社のパンも高く評価してくださっています。最初は「応援したい」という気持ちで購入していたが、味も「目黒で1・2番を争う味だね」とすっかり気に入ってくれています。

また、区内外の中学生の職場体験も積極的に受け入れられている森さん。

実際に中学生の対応をするのはスタッフの藤田さんで、地域の子供会の仕事なども後方支援をし、地域の一員として協力できることをしよう、そんな思いでいらっしゃるそうです。

これからも、森さんの期待に応えられるもえぎの会であり続けたい、またぴえ～留さんが大切にしている志を見習いたいと背筋が伸びました。

目黒区目黒本町5-27-15

TEL 03-3792-4227



森さん、しいの実社でお買物



昨年、創立50周年を迎えた「株式会社 東京産業」はリネンサプライ、化学工業薬品を取り扱う商社です。代表取締役社長の田辺英之氏をお訪ねしました。先々代の業務用洗剤の製造販売以後、産業クリーニングの浸透とともにリネンサプライ業界へ専用業務用洗剤の販売を開始。環境問題、オイルショックなどの苦労を乗り越え、現在は首都圏を中心に、静岡、大阪方面にも、リネンサプライ、大型洗濯工場で使用する洗剤の販売、開発、環境にやさしい洗浄剤の開発などの事業を展開されています。そして、販売のみならず顧客のニーズとメーカーとの橋渡しに加え、情報提供、薬剤や機器の知識を身に着けた営業マンを擁し、特化したサービスや商品への付加価値にも力を注いでいます。



田辺英之社長

「工場にアドバイスのために出向いて障害を持って働くみなさんと話をする機会があります。当初はどのように接したらいいのか戸惑いもありましたが、話しているうちにそれぞれの個性がわかり、なじんできますね。利益追求の企業ですから、障害のある人もしっかり働き、生産効率を落とさないと思っています。その中で、みなさんの持つストレスは我々の想像以上かもしれません。それを軽減することは簡単なことではありませんが、周囲のパートの方などと仕事以外のイベントで交流を行ったり、工夫、説明したり自分の考えを伝えたりしています。」と日々のご努力に頭が下がります。また「今はボーダレスの時代に入り、自分の位置がわからなくなる時があります。個性として認めて共生できる社会の必要性を強く感じます。日本は、他国に比べ恵まれていて、ハンディの有無、老若男女、価値観の違いなど、理解に時間がかかり、ストレスも感じますが、自分と違う人と出会うことがなければ永久に理解もできないと思います。」と、社会の融和や社会貢献も意識されています。

田辺社長は、史学を学ばれ、歴史に造詣が深いのですが、趣味は学生時代からの音楽で、ハードロックのギタリスト！現在しいの実社に就労中のお子さんに、影響を与えているのでは？の問いに「いえ、彼は、プラモデル派です。何か楽しめるものがないかと探しました。普段のものの見方も、我々とは観点が違うのか、いつもそれを活かしてあげたらなあと思っています。これからは仕事も多様化、細分化してくるので、いろんな個性が生かされるでしょう。親亡き後も社会にだけ面倒を見てもらうのではなく自立できればと思っています。家族が彼を中心にみんなて笑っていただけることは幸せです」とおっしゃる笑顔が印象的でした。

新規後援会員をご紹介します

年会費 1口1,000円 個人会員 1口以上、 法人会員 10口以上

会費はお手数ですが、直接お持ち頂くか、下記口座へお振込みください。

郵便振込口座 00130-5-667751

口座名義 もえぎの会後援会

問い合わせ先 もえぎの会後援会事務局(電話:03-5724-7153)

* 恐れ入りますが振り込み手数料はご負担願います。

沙羅の家

萌木

10周年記念バス旅行@シーサイドスパ八景島

世話人 長谷茂雄



大岡山の出発

3ホーム合わせて利用者が約20名となり、一堂に会することが難しくなっています。そのため、年に1度程度顔を合わせる機会を作ることを目的として、日帰りのバス旅行を実施しました。

利用者19名、スタッフ9名という大所帯なので貸し切りバスを手配して、日帰りではありますが旅行気分を満喫しました。

日帰りなのでちょっと時間はタイトでしたが、全員がそれぞれのスタイル、それぞれの思いで、ゆっくり温泉気分を味わいました。

その後、みんなが楽しみにしているおいしいランチを味わい、じっくりお土産選びしました。ひさしぶりに、楽しい時間を過ごすことができ、鋭気を養うことができました。



ゆったりしたバスの中



楽しみにしているランチ



グループホーム「沙羅の家 清水」地鎮祭

区立第四中学校跡地での障害者グループホームの運営事業者として目黒区に選定していただきました。「沙羅の家」開設10周年を迎えた、経験と工夫により、障害をもつ人が地域で自立して生活する場を創りたいと、準備を進めています。

3月9日に安全を願って地鎮祭を行いました。



編集後記

法人、しいの実社・沙羅の家にとって今年は重要な年となります。課題を見極め、着実に乗り越えていきたいと思いますので、ご支援・ご協力よろしくお願い致します。(岡田な)

地域

で生活するという もえぎの会の理念に基づき、障害者が親なき後まで人生を全うするために、地域の皆様に、より理解していただくような活動をしております。建築段階から、運営段階まで、地域の皆様にはいろいろお世話になりますが、末長くお付き合いしていただきますように改めてお願いいたします。

発行: 社会福祉法人もえぎの会

住所: 目黒区目黒本町2-7-3

(法人本部) 電話: 03-5724-7153

